

## 平成30年度各部の重点課題の取組結果

部(局)	教育部
部(局)長	福島 潔
教育監	岡本 泰典(学校教育担当)

### 【基本方針】

義務教育を取り巻く環境は急速に変化しています。平成27年4月には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に伴い、地方教育行政の責任の明確化や迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化などが求められました。これを受け、平成27年度から総合教育会議が定期的開催され、平成26年3月策定の「柏原市教育振興基本計画」の後期計画である改訂版(平成29年度から平成31年度まで)を策定し、平成29年5月開催の第1回総合教育会議において、市長が定める教育に関する「大綱」に位置付けられました。また、教科指導においては、道徳が特別な教科として小学校(平成30年度から)、中学校(平成31年度から)で開始されるとともに、小学校中学年(3,4年生)では「外国語活動」、高学年(5,6年生)では「外国語科」が平成32年度から導入されます。

このように教育改革の時代ですが、本市の教育理念「『かしわらっ子』はぐくみ憲章」(平成20年策定)にある「15の春にひとすじの意志をもったひたむきな姿勢をつらぬく若者の育成」を期して、「柏原市教育振興基本計画」に定めた4つの基本方針に基づく教育行政を市民と協力しながら推進していきます。

### 【達成度について】

- A: 達成(設定した目標を達成することができた。100%)
- B: 概ね達成(概ね目標どおり達成することができた。70%以上100%未満)
- C: 一部達成(目標の一部を達成できた。50%以上70%未満)
- D: 未達成(目標達成に向け取り組んだものの、目標達成にはいたらなかった。50%未満)
- E: 未実施(事業の取りやめなどにより評価不能又は困難。0%)

### 【重点課題】

	重点課題	平成30年度 達成状況
1	幼小中一貫教育を推進します。	B
2	知・徳・体の調和のとれた子どもを育みます。	B
3	安全・安心で、質の高い教育環境をつくります。	A
4	子どもから高齢者まで、誰もが学びたいときに学び、身近な地域で気軽にスポーツに親しむことが出来るよう、支援を行います。	B

部(局)	教育部
------	-----

**重点課題 1 幼小中一貫教育を推進します。**

全体の達成度  
**B**  
概ね達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	①各中学校区で、幼小中11年間を見通した教育活動の充実をめざします。 ②本市一貫教育の発展した形となる施設一体型一貫校や、義務教育学校、コミュニティスクールの設置の検討を進めます。 ③柏原市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針に基づき、国分中学校区について具体的な方策を進めます。
---------------------	---

活動目標
各中学校区で教職員間連携、子どもの交流・連携、家庭・地域・学校の連携・協働を充実させます。
施設一体型一貫校、コミュニティスクール、義務教育学校について研究・調査し、設置に向けて検討を進めます。

具体的な取組実績
本年度も幼小中一貫教育推進教員を11名配置し、小中の乗り入れ授業を行うことで、系統性・連続性のある指導ができました。8月には児童生徒会サミットを開き、「互いに気持ちよい話し方」について小中の子どもたちが校種を越えて議論を深めることができました。11月の教育月間全体会では、SNSの危険性についての講演を実施し、昨年度より多くの保護者にも参加していただくことができました。
国の動向や先進校の取組み、そして本市の現状などを鑑みながら検討を進めました。

達成目標
各学校園長の成果報告や、各学校園の子ども、保護者、教員対象の学校評価、市民意識調査の「教育指導」の満足度を前回数値より高めます。
年次計画を定めるとともに、保護者、地域へ周知を図り、一定の理解を得ます。

達成状況	達成度
市民意識調査の「教育指導」の満足度を前回数値より高めることができました。	<b>B</b> 概ね達成
各中学校区において、家庭や地域に向けて幼小中一貫教育の取組みや年間計画などを発信し、学校・家庭・地域の連携がとれました。	<b>B</b> 概ね達成

**総合評価・総括**

幼小中一貫教育は、平成30年度で12年目となり、この間学校、家庭、地域が一体となった取組が着実に積み上げられてきました。今後はこれまでに培われた各校区における取組を検証・整理し、好事例の共有や活用をより進めていく必要があると考えています。しかしながら、子どもたちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で、学校だけの工夫だけでは教育の充実はとても困難になっています。よって、各学校において新しい学習指導要領で求められている「社会に開かれた教育課程」を編成し、より家庭や地域との連携を大切にしていけます。

部(局)	教育部
------	-----

重点課題 2	知・徳・体の調和のとれた子どもを育みます。
--------	-----------------------

全体の達成度
B
概ね達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	<p>家庭、地域、学校が連携・協働して、以下に取り組みます。</p> <p>①「確かな学力」：個に応じた指導を通して、「全国学力・学習状況調査」や「大阪府中学校チャレンジテスト」、市独自の「かしわらっ子はぐくみテスト」等で、前年以上の結果をめざします。</p> <p>②「豊かな心」：人権教育や道徳教育、キャリア教育の充実を通して、いじめや不登校、問題行動の減少をめざすとともに、夢や志をはぐくむ教育活動の充実をめざします。</p> <p>③「健やかな体」：保健体育や食育の充実により、将来にわたり体や健康に留意し、自己管理できる力の育成をめざします。</p>
---------------------	--

活動目標
市独自で、児童の学力と個性や心の有り様も調査する「かしわらっ子はぐくみテスト」を継続実施し、効果的な活用により、学力向上と個性の伸長等につなげられるよう学校を指導します。
本年度より小学校から始まった「特別の教科 道徳」を円滑に進めるとともに、次年度からの中学校実施に向けて丁寧な準備をします。
各校で学校保健委員会が実施できるよう連絡・調整します。安心・安全な学校給食の実施を通して食育の充実を図ります。

具体的な取組実績
本年度も12月に、小学校の1年生から6年生までを対象に「かしわらっ子はぐくみテスト」を実施しました。3年目をむかえ、市全体で向上をめざしていた「書くこと」については、記述式の問題で全国を上回り、条件作文の無回答率が23%から11%に減少しました。
道徳教育推進教師連絡協議会を年3回実施しました。小学校は本年度から教科化になったということで、評価についての交流が活発になりました。中学校については、次年度の教科化に向けての情報交換することで準備が進みました。また本年度市内で行われた大阪府中学校同和教育研究会、大阪府小学校道徳教育研究会の実践報告を会議の中で行うことで、優れた実践を市域に広めることができました。
柏原市医師会・歯科医師会・薬剤師会と連携し、各校で学校保健委員会が実施できました。学校給食を通して、バランスのとれた献立を考えたり、朝食の大切さを学んだり、地産地消の学習をしたり、全校で食育の充実を図ることができました。

達成目標
各学校園の子ども、保護者、教員対象の学校評価の結果を前回数値より高めます。
市民意識調査の「教育指導」の満足度を前回数値より高めます。

達成状況	達成度
本年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率において、小学校が大阪府を超え、ほぼ全国並みになりました。中学校ではまだ全校を下回っていますが、同一児童生徒を経年比較しますと、小学校時より伸びていることがわかりました。	B 概ね達成
市民意識調査の「教育指導」の満足度を前回数値より高めることができました。	B 概ね達成

総合評価・総括
「全国学力・学習状況調査」の平均正答率では、特に小学校において向上が見え、「中学校チャレンジテスト」や「かしわらっ子はぐくみテスト」においても、市で統一テーマとして取り組んできた「書く力」については一定の成果が現れてきました。しかしながら、文章から必要な情報を読み取る力や、家庭学習の時間には依然として課題が残っています。次年度からは、平成28年度から平成30年度までの3ヶ年の学力向上に向けて策定した「かしわらっ子はぐくみプラン」を再編し、新たに3つのテーマと7つの取組によって子どもたちの学力の向上に努めます。併せて小中とともに道徳が教科化されることを契機に、児童・生徒が主体的に道徳的価値について「考え・議論する道徳」の充実に向けた取組を進めていきます。

部(局)	教育部
------	-----

重点課題 3	安全・安心で、質の高い教育環境をつくりま す。
--------	----------------------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	①安全・安心な学校施設の環境整備に向けては、小中学校の普通教室への空調設備の設置、トイレの洋式化を含むトイレの改修などを進めます。 ②小・中学校の適正規模・適正配置基本方針に基づき、保護者や地域住民の理解と協力を得ながら小・中学校の再編を進めます。 ③支援を必要とする児童・生徒の教育機会均等とその確保に向け、経済的・人的・設備的な基礎的環境整備を進めます。
---------------------	---

活動目標
中学校の普通教室への空調設備の設置を完了するとともに、小学校の普通教室への空調設備設置に向けた設計を開始します。
小・中学校の適正規模・適正配置につきましても、国分中学校区の小規模化しています国分東小学校と国分小学校の統合目標年月日を定め、それに向けて保護者や校区住民への現状説明や意見交換等を進めます。
支援を必要とする児童・生徒に必要な合理的配慮を提供するために、「個別的教育支援計画」を充実させ、支援教育就学奨励費の支給や教員・介助員の配置等、教育環境を整備します。

具体的な取組実績
中学校の普通教室への空調設備の設置は完了し、小学校の普通教室への空調設備の設置に向けた設計業務も前倒しで完了しました。
国分東小学校と国分小学校の統合目標年月日を2020年4月1日と定め、保護者や校区住民に述べ9回の説明会を行い、ご意見をいただきながら、理解を求めて参りました。いただいたご意見をもとに、統合委員会で児童・保護者の安全・安心につながる施策や取組みを話し合い、準備を進めてまいりました。
支援教育就学奨励費が適正に支給されるよう支援を必要とする児童・生徒の状況を正確に把握するとともに周知に努めました。合理的配慮の提供のため「個別的教育支援計画」を活用しながら、教員・介助員を適正に配置することができました。

達成目標
市民意識調査の「教育環境」の満足度を前回数値より高めます。
H30年度に全中学校、H31～32年度の2年間で全小学校の空調設備を整備します。

達成状況	達成度
市民意識調査の「教育指導」の満足度を前回数値より高めることができました。	A 達成
平成30年度に全中学校への空調設備の設置が完了しました。平成31年度中に小学校への空調設備の設置ができるよう設計業務が完了しました。	A 達成

総合評価・総括
中学校への空調設備の設置が完了し、小学校への空調設備設置に向けた設計業務が完了したことにより、柏原市立の全小学校・中学校への空調設備が整備されることとなり、また、国分小学校・国分東小学校の統合については、目標年月日を周知できたことで、具体的な話が進み、計画をたてることができました。支援教育については、人材確保に苦勞しながらも介助員配置や支援教育就学奨励費の支給を含め、安全・安心で質の高い教育環境を提供できています。

部(局)	教育部
------	-----

重点課題 4	子どもから高齢者まで、誰もが学びたいときに学び、身近な地域で気軽にスポーツに親しむことが出来るよう、支援を行います。
--------	--

全体の達成度
B
概ね達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	①子どもの成長を図るためには、学校生活以外に家庭・地域社会との関わりや学外での学習が大きな影響を与えます。そのために、青少年の健全育成に関して更に取り組みます。 ②スポーツによる健康増進を図るため、身近な地域で気軽にスポーツに親しめる機会と施設の充実に努めます。 ③子どもから高齢者まで、多様な学習環境を整えるため、生涯学習の充実に取り組みます。
---------------------	---

活動目標
青少年の健全育成活動として、通学時の見守り活動や放課後子ども教室（のびのびルーム）の開催、また、学校以外で楽しく学ぶことのできる青少年講座を開催し、学べる機会を増やします。
生涯スポーツの場として「スポーツフェスティバルin柏原」や「柏原シティキャンパスマラソン」等を開催するとともに、サンヒルスポーツセンターなどのスポーツ施設の運営を行い、平成31年4月に恩智川遊水地内に新たな市民スポーツ広場を開設するための準備を進めます。
公民館や図書館、歴史資料館、自然体験施設等を活用し、市民の生涯学習の充実に努めます。

具体的な取組実績
<ul style="list-style-type: none"> <li>・724名の登録ボランティアによる通学時の見守り活動を実施。</li> <li>・放課後子ども教室（のびのびルーム）は計187回開催。</li> <li>・青少年講座【釣り入門講座6回、科学講座1回、歴史講座1回、昆虫観察講座3回、星空観察講座2回及びハンドクラフト(革細工)講座1回】の計14回開催した。対象者は小学1年生～中学3年生で計179人が参加。</li> </ul>
①「スポーツフェスティバルin柏原」には、過去最高の8,199人が来場され、参加者が各種スポーツに親しまれました。②柏原シティキャンパスマラソンには844人のランナーがエントリーされ、大阪教育大学内のアップダウンの激しいコースに挑戦されました。③体育館・サンヒルスポーツセンター等の施設は大過なく運営されました。④堅下北スポーツ広場は平成31年3月末に完成予定であり、4月1日より開場いたします。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・竜田古道の里山公園（スマイルランド）入場者数及びキャンプ施設等の利用者数（H31.2月末現在）はそれぞれ延べ13,293人と28,156人となっています。</li> <li>・歴史資料館では、年4回の企画展、各種講演会や講座等を実施し、多数の来館者（平成30年度は18,625人）を得ました。</li> <li>・公民館（本館、堅下分館、国分分館）の利用者数は、62,653人（H31.1月末現在）、市民文化祭（10月6～21日開催）12,408人の参加をいただきました。</li> </ul>

達成目標
市民意識調査の「青少年の健全育成」「スポーツ振興」「生涯学習」の満足度を高めます。
子どもたちの学べる機会を増やすため、地元大学の協力を得て青少年講座を増やします。
（仮称）恩智川多目的遊水地市民スポーツ広場を整備します。

達成状況	達成度
市民意識調査のうち「スポーツ振興」は満足度を高めることができ達成したが、「生涯学習」及び「青少年の健全育成」については未達成であったことから、今後満足度を高める取組みを進めます。	<b>C</b> 一部達成
青少年講座の開催回数につきましては、前年度と同数となりました。講座の内容については、大学の協力を得て新たな講座を開催しました。	<b>C</b> 一部達成
堅下北スポーツ広場は、平成31年4月1日をもって開場いたします。	<b>A</b> 達成

総合評価・総括
青少年の健全育成を図るには、学校教育のみならず学外での学びが大切と考えます。今回の市民意識調査では未達成であったことから、今後は市民のニーズに合う内容の講座等を開催するとともに、児童や生徒たちと地域が密接につながるよう、社会教育関係団体と意識向上を図ることを共有しながら、満足度の向上に努めたいと考えます。 また、スポーツ振興が市民意識調査で満足度を高めており、来年度から堅下北スポーツ広場が開場することにより更に満足度が向上するよう取り組みたいと考えます。一方、生涯教育については、今後満足度が向上する方策を模索し、具体化することが重要と考えます。